

27年8月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 8月1日～ 27年8月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 66.7	20.0	20.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	50.0
	カラマツ	△ 33.3	0.0	20.0
	トドマツ	△ 33.3	0.0	33.3
消費動向	スギ	△ 33.3	20.0	0.0
	ヒノキ	0.0	25.0	0.0
	カラマツ	0.0	20.0	0.0
	トドマツ	△ 33.3	33.3	0.0
在庫動向	スギ	△ 50.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	0.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 20.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は8月の大きな減少が、9月、10月は増加。ヒノキ、カラマツ及びトドマツは8月の減少が、9月は横ばい、10月は増加。

・スギ及びトドマツ原木の消費は8月の減少が、9月増加、10月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは8月の横ばいが、9月は増加、10月は横ばい。

・スギ原木の在庫は8月の減少が、9月、10月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは8月、9月の減少が、10月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
スギ	0.0	0.0	40.0
ヒノキ	25.0	25.0	25.0
カラマツ	0.0	0.0	20.0
米マツ	0.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	△ 33.3	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ及びカラマツ原木価格は8月、9月の保合が、10月は強含み。ヒノキは強含み。

・米マツ及びその他は保合。北洋カラマツは8月の弱含みが、9月、10月は保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・減産によりスギは少なく、カラマツは先月並。非構造用合板でのカラマツ使用が増えて来ている。生産に合わせて入荷、在庫はほぼ横ばい。
・8月盆休み、プラス減産継続。
・出材が減少の感ある。取り扱いはず変わらずも、秋に向けて一部買いにくい(価格底上げ)状況が出るかも。8月は盆休みもあり、稼働日は少ないが、そこそこ荷動きも出て来たため、消費は横ばい～少し多め。時期が良くないため必要量分の在庫でしばらく維持。
・使用量に応じ入荷(夏季入替)。生産計画に沿って消費、ヒノキ材消費増。夏季につき古材使用完了。フレッシュ材入替済。使用量に対し適正在庫。
・スギ丸太は長雨の影響で入荷減少。ヒノキ丸太は在庫増のため受入れ制限中。9月以降、受注が回復して減産ベースが、通常生産に戻ればいいが、在庫調整中。

(原木価格)

・スギ、カラマツは横ばいだが、カラマツは強含み。北洋カラマツ現地価格が下がっている。
・今後、需要増に向け取り合い懸念。
・国産材は、6,7月に価格下落した分、出材も落ちたため、少し戻り基調。ただし、荷動き依然として悪く、国有林のシステム販売等で出材が増えてくると、価格が上がらないエリアが出そう。
・ヒノキ特定材のみ上昇、他は横ばい。
・在庫増のため、様子を見たい所。

27年8月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
生産動向	構造用(9mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 14.3	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 42.9	0.0	16.7
	〃 (28mm)	△ 42.9	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	50.0	20.0	20.0
	〃 (12mm)	42.9	16.7	16.7
	〃 (15mm)	42.9	16.7	16.7
	〃 (24mm)	42.9	16.7	16.7
	〃 (28mm)	42.9	16.7	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	△ 66.7	△ 40.0	△ 40.0
	〃 (12mm)	△ 71.4	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (15mm)	△ 57.1	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (24mm)	△ 71.4	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (28mm)	△ 71.4	△ 33.3	△ 33.3

・合板の生産は、全品目で8月は減少するが、9月、10月は、24mmが10月に増加をするのを除いた以外は横ばい。

・合板の出荷は、全品目で3ヵ月連続して増加。

・合板の在庫は、全品目で3ヵ月連続して減少、中でも8月の減少幅が大きい。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
構造用(9mm)	80.0	40.0	40.0
〃 (12mm)	66.7	40.0	40.0
〃 (15mm)	66.7	33.3	33.3
〃 (24mm)	66.7	33.3	33.3
〃 (28mm)	66.7	33.3	33.3

・合板の出荷価格は、強含みで推移。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・底値感と操短で荷動き活発。在庫不足気味。
- ・7月からの減産が続いている。9mm～15mmは、今までにないくらいの出荷量、24mm～28mmは先月並。在庫は24mm～28mm減産分が減。
- ・減産継続中。需要増で一部欠品あり。
- ・7月の30%減産を継続している。
- ・取扱量少ないため大きく変わりなし。
- ・構造用合板30%生産減。単価安だが生産量に対し約10%出荷増。在庫は先月比12%減。
- ・引き続き生産調整、状況によっては増産する。梅雨が明け、住宅着工も増加していることから、出荷量はある程度見込めると予想。出荷量が順調に行けば、在庫は徐々に減少。

(合板価格)

- ・全品目値上げ。特に12mmは強気。24mm、28mmは12mmほど強くはない。
- ・大幅でないものの、6月後半～7月の値下がりには落着いてきた感があり、全体的に上げ基調。メーカー間の需要調整が崩れるとまた下がるかも。危惧する。
- ・7月初旬に定めた価格まで到達していない。8月値戻しに期待。
- ・他メーカーの値戻しにより、価格の上昇を期待する。